

「経友」編集後記

松島 齊

2021年8月31日

依然新型コロナウイルスのパンデミックが継続中です。8月下旬時点で、東京都を含む多くの都道府県で緊急事態宣言が発令されており、収拾のめどは立っていません。一方でワクチン接種は徐々に広がっています。東京大学でも職域接種が進められています。しかし、ワクチンが長期にわたって効果があるのか、新たな変異株にも効果があるのかなど、まだはっきりしないこともあり、接種後も不安な気持ちに変わりはありません。

経済学研究科ではパンデミックに関連する研究が進んでいます。感染率の経緯や経済活動との関連性といったコロナ対策に必要となる計測に、経済学の知見が使われるのです。また、ビジネスが対面からリモートにシフトし、通信技術の開発と社会への浸透が急速に進んでいます。会社や住居を郊外に移すなど、人の動きにも変化が出てきています。日本社会にこのような人流は久しくありませんでした。そのため、パンデミックに触発された研究者は次第に、コロナの影響をとらえる視点を、現在から未来へと、シフトさせてきています。気候変動、デジタル経済と並んで、パンデミック後の未来社会をどう考えるかが、経済学にとって中心的なテーマになります。実りある濃い議論が期待されます。

さて、この夏には大きなイベントがありました。東京で半世紀ぶりにオリンピックが開催されたことです。つづいて、メッセージ性の高い開会となったパラリンピックが、原稿執筆時点で進行中です。緊急事態宣言下での開催となり、実質無観客で競技が行われます。もっとも、世界的なパンデミック下での開催については賛否両論あり現在もその是非に終止符は打たれません。

私は例年であれば、夏場に学会参加で海外に出張しており、オリンピックをちゃんと見ることはできません。しかし今年は出張を控えざるを得なかったため、緊急事態宣言の中30数年ぶりにじっくり観戦できました。バスケットボール、フェンシング、卓球、水球を長時間楽しみました。しかしなんといっても侍

日本の野球は私には見どころ満載で、山田哲人、村上宗隆、マクガフといった傑出した選手の活躍が特に目を引きました。（きっとペナントレースでもかれらは活躍してくれることでしょう。）みなさまはいかがでしたでしょうか。